

議 事 録

会議の名称	令和7年度 第3回茨木市人権尊重のまちづくり審議会
開催日時	令和8年2月13日(金) 午後2時00分～3時00分
開催場所	茨木市役所 南館3階 防災会議室
会長	今西 幸蔵
出席者	今西 幸蔵 熊本 理抄 野崎 靖 川口 美智子 加古 望 尾山 洋恵 鈴木 康彦 住友 靖夫 吉田 順子 笹川 千昌 (10人)
欠席者	辻本 元衛 柴原 浩嗣 田畑 敬 (3人)
事務局職員	中井市民文化部長 松山市民文化部次長兼人権・男女共生課長 和田人権・男女共生課参事兼啓発係長 大石人権・男女共生課主幹兼豊川いのち・愛・ゆめセンター館長 雛迫人権・男女共生課主幹兼沢良宜いのち・愛・ゆめセンター館長 松澤人権・男女共生課人権係長 飯酒盃人権・男女共生課人権係職員 (7人)
開催形態	公開 (傍聴人 2人)
議題(案件)	(1) 人権問題に関する市民意識調査の途中報告について (2) その他
配布資料	(1) 人権問題に関する市民意識調査報告書(案)(資料1)

(順不同、敬称略)

議 事 の 経 過	
発言者	議題(案件)・発言内容・決定事項
事務局	<p>本会議は原則公開の決定をいただいている。本日の会議には、傍聴の申し出があるので入室していただく。</p> <p><傍聴者入室></p> <p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">1 開会</p> <p>ただ今から、「令和7年度第3回茨木市人権尊重のまちづくり審議会」を開会する。この後の議事進行については、人権尊重のまちづくり審議会規則第5条第1項の規定により、会長に議長を務めていただく。</p>
会長	まず、会議の開催にあたり、出席状況について、事務局から報告願う。
事務局	<出席状況と会議の成立について報告>
会長	<p>それでは、会議次第に沿って議事を進める。</p> <p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">2 人権問題に関する市民意識調査途中報告について</p> <p>次第2 人権問題に関する市民意識調査の途中報告について、事務局から説明願う。</p>
事務局	<人権問題に関する市民意識調査の途中報告について説明>
会長	<p>ただ今の説明について、何か質問や意見はあるか。</p> <p>私個人の見解を申すと、外国人の人権問題についてはかなりシビアな結果であると見ている。私の思っていた茨木市民の意識と少しずれている。分析に関わってくると思うが、それが気になっている。</p>
A 委員	私も外国人の問題が気になっている。よく言われるように、「外国人」と一口に言っても、日本に定住している人の問題と、観光などで来ている人の問題は全然違うと思う。そのあたりは報告書に反映されないのか。
会長	事務局、いかがか。
事務局	この設問の問い方では、定住している人と観光などで来ている人の問題を分けて分析することは難しいと思う。先ほど会長がおっしゃったように、外国人に対する意識が前回の調査結果と比較して良くない方向に向かっているということで、今後、市として、市民の皆さんへ正しい情報を発信し、地域での交流を進める中で、どう意識を変えていけるのか、考えていく必要があると思う。
会長	茨木市ではない別の自治体の話であるが、「外国からの観光客がゴミを捨てている」という意見があった。そのような問題と、日本に定住して日本のために頑張っている方の問題はだいぶ違うので、分けて見る必要があると思う。では、次の意見にうつる。
B 委員	私はたまたまこのアンケート調査の対象者に選ばれ、回答させていただいた。前回までの

	<p>審議会では、アンケートの回答は大変だと思い意見もしたが、やはり回答して良かったと思っている。こんなに皆さんの意見を丁寧に分析して反映していただき、茨木市は温かく、人権に対して一生懸命に頑張っている市だと感じた。</p> <p>同和地区についても、報告書(案)の 33 ページを見ると、年齢が上がるにつれて「避ける」意識が強まると書いてある。私は小中学校と茨木市で生活を送り、また、学校でも人権教育を自ら行い、かなり昔から同和問題については茨木市ですずっと教育をしてきた。また、市の人権月間には、人権作文や人権ポスターなどを書くだけではなく、その前に子どもたちに話や取組もするので、やはり積み重ねであると実感している。</p> <p>茨木市の人権月間の講演会にもよく参加していたが、性的マイノリティの講演会だと、これまでに、弁護士でトランスジェンダーの仲岡しゅんさんや、弁護士で男性同士の“夫夫”(ふうふう)である吉田さんと南さんの講演会にも参加したことがある。やはり市民に啓発することはすごく大事なことだと思うし、今回のアンケートもありがたいと思った。</p>
<p>会長</p>	<p>地道な継続的な学習、そして日頃からの市民に対する啓発が大切であるとの指摘である。次の意見にうつる。</p>
<p>C 委員</p>	<p>貴重な結果だと思う。実施時期が昨年11月ということで、選挙期間を通じてのヘイトスピーチを含めた政治や社会の情勢が外国人の人権問題の項目に大きく影響したのではないかと思いながら、かなり深刻な状況について私も調査結果を拝読して実感した。</p> <p>報告書(案)の 108 ページからの「調査結果についての考察」のところで、外国人の人権問題に関するまとめが書かれている。例えば、外国人の人権問題に関しては認知度も低いし、関心度も低い。しかし外国籍の住民を忌避するという状況であり、そういう層にどうアプローチをするかということをしごく考えさせられる結果だと思った。</p> <p>おそらくインターネットなどで情報を入手している方も多いだろうが、人権問題の認知度は低く、関心度も低い。忌避意識は非常に高い。そうした層に、果たしてこれまでの啓発アプローチが届くのか、というかなり深刻な状況と読んだ。おそらく啓発が届くのは関心がある層であるので、関心がなく、かつ、フェイク情報も含め誤解を持っている層に対するアプローチをどうしていくのか。果たしてそれが啓発だけで可能なのだろうか、とも思った。</p> <p>ここは「人権尊重のまちづくり審議会」であり、この意識調査の結果を受けて行動方針などを今後検討し、行動計画の見直しもしていくことになる。「啓発で頑張ります」だけでは立ち行かない状況も出てくるのではないかと意識調査の結果を見て思った。この報告書(案)で、何か所か「従来の啓発活動では限界があるのではないかと」とのまとめがあるが、その啓発活動以外の人権活動について、どのようにこの調査結果から読み解き、書き込むのかということが、私としては非常に気になったところである。</p> <p>例えば、110 ページ「(2)さまざまな人権課題について」の「①女性の権利」で、「女性登用の数値目標に反対」ということが出てくる。そこにも「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)に対する意識改革が必要なのではないかと」ということが書かれている。また、108 ページにも、「差別を完全なくすことは無理だ」との回答が40歳代では8割を超えるとあり、ここにも「啓発活動の効果」について書かれている。昨今の状況を見ると、“逆転した被害者感情”ということがよく言われる。自由記述を拝読しても、生活が困窮している人たちが、特定の</p>

	<p>層に対する人権政策や福祉政策に対して逆転した被害者感情を抱いているというか、被差別少数者や生活困窮者に対するヘイト意識が出ているのを見ると、自身も困難な状況に置かれながらもヘイト感情を持っていたり、人権政策への反発感情を持っていたりする人々に対する人権政策を市としてどう取り組んでいくのか、ということも考えさせられる結果だった。</p> <p>近年、“弱者男性”というような言葉が使われ出して、女性の人権に対して「やり過ぎだ」と攻撃してネット上でかなり炎上している。また、多くの国々でも、これまで言われてきた“マイノリティ”ではない人たちが“新しいマイノリティ層”と言われる中で、こうした人々にはいわゆる「正しい」知識をもって啓発するだけではおそらく限界があるのではないか、というようなことも自由記述を拝読して思った。「人権」と言ったときに、例えば「部落の人」、「外国人」、「性的マイノリティ」という特定の属性の人を対象に「その人々について正しい知識を身につけましょう」という啓発ではなく、「人権とはまさにすべての人々のことなのだ」ということを本気で取り組まないといけない、と調査結果から思った。</p> <p>おそらく「人権」が、「この人にあげると私のものが奪われる」「どうしてこの人にはあげて私にはこないの」という、0 か 100 かとかシーソーゲームのように捉えられている。すごく怖いのが、それが結果として福祉政策や人権政策を後退させていってしまうのではないかとことである。「苦しい」と言っている人々がマイノリティを叩く方向ではなく、自分の人権について声をあげられるような人権政策を考えなければいけない、と突きつけられているような結果として読んだ。</p> <p>また、40 歳代でいくと氷河期世代の人々の痛みや声を読むことができる。その40歳代の訴えみたいなものをどう引き出していくのか。おそらく忙しくて啓発にも来られなかったり、居場所もなかったり、声をあげることさえできない人々で、その人々が、例えば部落問題で言えば「そっとしておけ」と言ってしまうのかもしれない。「いや、そっとしておくとは差別はなくなるんだよ」「あなたも自分の痛みをそっとしておくのか」「そっとしていたら、むしろあなたへの攻撃もひどくなるんだよ」と、そういうことを伝えられるような、あるいは居場所がつかれるような、声をあげられるようなことが必要だと痛感した。</p> <p>いのち・愛・ゆめセンターに関しては、認知度は高くはないが、ほかの相談窓口と比較すると割合として高い数字が出ているところなど、肯定的に読むこともやっていきたいと思っている。そのようなことも少し書き込んでいければと思う。</p> <p>また、日常的に利用するメディアとして、「インターネット」と「テレビ」に二分されている状況で、インターネット層に対しては「インターネット上における人権問題」の啓発だけではなく、インターネットを使った市の発信もどうしていくのかということも考える必要がある。</p> <p>もしよければ皆さんの質問や意見、また感想もあれば聞きたい。</p>
<p>会長</p>	<p>とても貴重な意見をいただいた。「啓発」という形を構造的な問題として、根本的に問い直す必要が出てきている。</p> <p>本日は自由にディスカッションしたいと考えているので、多くの意見をいただきたい。次の意見にうつる。</p>
<p>D 委員</p>	<p>いろいろな人権問題があるが、やはり立場として、学校教育の立場でものを考えてしまう</p>

	<p>ので、教育が担う責務が非常に大きいと思う。先ほど B 委員もおっしゃっていたが、茨木市の人権教育を含む人権施策の取組において素晴らしいところは、同和教育をはじめ、さまざまな人権課題に対しての学びの場、考える場を十分に提供し、人権教育・学習を進めているところである。各学校に必ず一人、人権教育の担当者がいるなど、公教育として等しく学べるような工夫がある。これは市教育委員会からの何かというわけではなく、教職員の力で連続と進め続けてきたことである。その成果として、各世代の回答の中で、「学校教育で得られた情報によって知ることができた」という結果につながっている。例えば、部落問題がまさにそうで、分析では「風化」と書いてあるが、やはり学校教育で出会うことによって正しい知識を得ることがとても大切だと思っている。学校の責務は、正しい情報や知識を、曇りなき目の子どもたちに正しく伝えることだと思う。</p> <p>ただ、残念なことに、そこだけの知識で終わってしまっている人が結構いるという実感もある。小中学校で得られた知識は、学びや人生の基礎になる部分であると思うが、基礎の上に何かがないとそこで情報が止まってしまう。そこからの経験や出会いが良いものでないと、それだけでは進まないところがあるので、それ以降に学ぶ場や出会う場があってほしい。学校教育だけでは立ち行かないこと、また、インターネットの台頭によってさまざまな情報をたくさん得られる場だからこそ、そこに対抗するわけではないが、正しい知識を再学習できる場が必要だと思う。</p> <p>これは、分析を含めた全体の結果を押しなべて話している。学校教育はもちろんこれからも進めていく。私たちには価値づけられた部分だと思うが、そこだけではなく、地域や保護者とも一緒にやっていく必要があるのかなと思う。</p> <p>また、先ほど C 委員が、どのように情報を届けていくかということをおっしゃっていたが、学校自身でも、その情報を本当に伝えたい相手になかなか伝えられないということがある。とても意識が高く、人権啓発的なことを進めてくださる方がいる一方で、本当に届けたい、もしくは支援したいところには情報が行き届かないこともある。学校がハブ(ネットワークの拠点)としてできたらいいなどは思っているが、学校だけではなく、地域、保護者、市民の皆さんと、どのように進めていくかということも課題だと、報告書を見て思った。</p>
<p>会長</p>	<p>貴重な意見をいただいた。学校教育の大切さと、それに続く社会同和教育というものもある。今は学校に「コミュニティ・スクール」という話が出てきて、地域住民が学校に入ってきている。学校の子どもたち、先生方、地域住民、あるいは関連する企業、皆が学ぶ場になれば良いと思いながら話を伺っていた。</p> <p>では、次の意見にうつる。</p>
<p>E 委員</p>	<p>人権の問題は世代によって大きく変わると思う。今の話にもあったように、子どもに対しては学校教育がまだまだ浸透できていないのではないかと、このアンケートからもわかる。</p> <p>企業における人権研修も、どこまでできているのか非常に不明瞭であると思う。非常に丁寧に人権研修を行っている企業もあれば、事務的、機械的に行っている、もしかしたら行っていない企業もあるのではないかと。さらに、非正規職員に対する人権研修がきちんと行われているのかというところで、与えられる教育・知識の差がまだあるのではないかと。ま</p>

	<p>ずは同じ教育レベルを全員に与えることが、差別をなくす、人権問題をなくすことにつながると思うので、市の教育をどうしていくかを考えることが、今とても大事なのではないかな。</p>
A 委員	<p>先ほどの D 委員の意見について、私もそう思う。調査の結果を見ていると、さまざまな学習経験がない人よりも、いろんな場で学習経験がある人のほうが問題意識が強いことは、当然出てくると思う。しかし、D 委員が言われたように、学校で基礎的な人権問題の学習をしても、なかなかそのあとにつながってこない。だが、インターネット等の自分に関係する身近な問題には関心がある。</p> <p>部落問題にしても、小中学校のときは、友達や、近くに地域があるなどの関係で、いろいろな学習をして、自分にとって身近な問題になる。しかしそれが、高校、大学、社会に行くと離れていってしまって、自分の身近な問題ではなくなってしまう。</p> <p>先ほど会長が言われたような大人だけの社会同和教育ももちろん必要だが、地域を巻き込んで大人も子どもも参加できるような何かがないと、なかなか難しいのではないかな。E 委員が言われたように、企業で行うのは難しい。また、茨木市だけの問題ではないと思うが、PTA が崩壊したり、子ども会がなくなったりと、地域コミュニティが弱くなっている。これはもう一度、一から考え直す方向を目指すほうが良いのではないかな。そうしないと、学校は学校、企業は企業、地域は地域と、それぞれで取り組んでいても難しいと思った。</p>
会長	<p>鋭いご指摘をいただいた。地域コミュニティの崩壊ということがあり、せっかく学ぶ機会を作ろうとしても、なかなか作れなくなっている現実がある。</p> <p>今日も午前中に生涯学習の審議会があり、地域コミュニティの再構築が話題に出た。今後の非常に重要な課題だと思う。では、次の意見にうつる。</p>
F 委員	<p>前々回の審議会でも意見したが、茨木市の現状を踏まえながら、討議をどのように進めていくかということを第一前提に置くべきだと思う。</p> <p>今出たような部落問題や外国人の人権問題、それから、私は実は視覚障害者である。先ほどから「研修」や「教育」という言葉が頻繁に出ている。私も今、他市で教員として勤務しており、企業人としても経験があるのだが、他市では人権の教育や研修、福祉の研修を頻繁にしている、私も講師として登壇したことがある。茨木市の現状としてはどうなのか、私にはよくわからない。</p> <p>それと今、大事なテーマではあるものの、例えば外国人の問題について考えた場合に、極端に言うと、京都では外国人の観光客が多く、大変な問題になっている。では、茨木市ではどうなのか。例えば、全く外国人が来ないような自治体で外国人インバウンドの差別、人権問題の定義、あるいは討議をすることは意味がないのかなと思う。</p> <p>全テーマ大事だと思うが、茨木市の特徴としてどうなのかという、元のデータが私にはよくわからない。広報には茨木市の人口が掲載されているが、今言ったようなテーマ、例えば部落問題や外国人、あるいは障害者について、茨木市民の中にどれだけいるのか、データとして全くわからず、ピンとこない。市民が 100 人いて、その中の 1 人でもいたら大きな問題だが、茨木市の実態として特色ある部分を強調して考えていくとか、優先順位をつけても良いのではないかな。</p> <p>実際に人権問題が起こっているのはアンケート調査からもわかったが、どのぐらいの規模</p>

	<p>の中でやっているのかがよく見えてこなかった。他市と比べて茨木市は人権の教育や研修をちゃんとやっていることがわかれば良いのだが、そのあたりが市民でありながら見えていない。</p> <p>どれも大事だが、優先順位をつけて、やっていくべきところを強調しながら、「これが茨木市なのだ」という政策が必要である。「全体はこうなのだ」というよりも「茨木市はこうなのだ」と。茨木市に定住して働いている外国人はたくさんいるが、観光の外国人はあまり来ないと思う。他市を含めた全体の討議よりも、茨木市としての人権問題を皆さんで討議して、政策・方針を打ち立てていかないといけない。これでアンケートをまとめて、市民の方に示しても、見るのは茨木市民なので。大阪府や日本全体の方が見るわけではないので。茨木市民として、また茨木市として、「人権問題をこうやっていきます」「このあたりが大きな問題なので力を入れて研修しています。教育しています」ということを持っていかないといけない。「今の世情はこうだ」と討議しても全く意味がない。きつめの判断であるが、そう思ったので意見を述べた。</p>
<p>会長</p>	<p>茨木市の人権の視点を掘り下げるとい意見だったと思う。次の意見にうつる。</p>
<p>G 委員</p>	<p>私はこどもが茨木市の中学生と高校生で、生まれてからずっと小学校・中学校と茨木市でお世話になっている。PTAとして学校にも行くが、今の年代のこどもたちは、「多様性を認める」「いろんなこどもたちがいるよね」「それぞれでいいんだよ」という人権教育を小さい頃から受けているので、友達に対して差別がどうこうというのはあまり聞かない。私がこどもだった頃は、自分とは違う方に対して「違う」という意識があったが、今のこどもたちは、私が感じる限りそういうことが一切なく、「みんなそれぞれあっていいよね」となっている。</p> <p>例えば不登校に関しても、私の時代であれば、「学校に行かないのはおかしい」とか、引っ張ってでも学校に連れて来るのが当たり前だった。今、こどもたちの話を聞くと、「あの子は何時間目になったら来るんだよ」とか「あの時間は違う教室で勉強しているよ」と、否定も肯定もしない。それが当たり前という形で育ってきているので、親の私のほうがこどもたちに「それは違うよ、今はこうだよ」と教えられることがたくさんある。</p> <p>やはり茨木市で、もちろん授業としての教育もしてくださっていると思うが、それ以外の普段の友達や先生との何気ないかかわりの中で、そういうことを感じながら成長させていただいていると感じている。なので、これからのこどもたちに関しては、そういうことの積み重ねでとても良い感じになっていくと思う。</p> <p>インターネットで情報はたくさんとれるが、今のこどもたちは生まれたときからそういう環境にあるので、きちんと情報の選択をしている。「それ、ちゃんとチェックした？その情報源どこかわかっている？そういうのを見て情報を取っていかないといけないんだよ」と、親のほうがこどもから教えられることがある。</p> <p>今のこどもは新しい価値観で進んでいくと思うが、おそらく親世代等が、昔の教育のまま生きているので、なかなか考えがアップデートできない。例えば、PTA や市や地域のイベントの案内を出してもほとんど引っかかってこない。「私は興味ないです」みたいな感じになってきている。私はPTA や地域にかかわっているが、どうしても皆さん忙しく、自分のことしか興味がない。自分に関係があることはすごく調べ、情報を取りに行くが、自分が興味のない</p>

	<p>い事には一切引っかかってこない。PTA や地域でも、人権以外の問題も含め、そこをどうしたら良いかが非常に悩ましいと日々話している。大人世代の意識改革がすごく難しい。市からもいろいろなパンフレットや X などが発信されているが、なにせ情報が多いので、なかなかその情報をキャッチして動くのは難しいと思っている。</p>
会長	<p>インターネットの問題は今、最重要課題のひとつだと思う。G 委員に質問であるが、子どもが親に情報に関して意見を言うということであったが、それはどこで教育されたのか。</p>
G 委員	<p>おそらく、学校、友達、先生から聞いてくる情報だと思う。</p>
会長	<p>正しいインターネットとの付き合い方を学んでいるということであり、そこが一番大事なところだと思う。次の意見にうつる。</p>
H 委員	<p>今回のアンケート結果を見て、いくつか思うところがある。</p> <p>一つは、私が思っていたより皆さんがまともに答えているという印象を持った。</p> <p>二つめに、学習経験に基づく判断力の大きさ、正しさがある程度現れている。継続した教育の重要性が、一つの資料として見える。こういった見方は一般的に言える。</p> <p>ただ、別の見方をすると、こういうアンケートの扱いには大変難しいところがある。というのも、いわゆる“美化バイアス”がかかる。すなわち、本当は違う意見を持っているが、書く時には「こう書かなければいけないだろう」というバイアスがかかってしまうケースがたくさんある。逆の見方もある。本当は正しい意見を言っているが、もっと過激に言ってやろうというコメントを書く人もいる。いろんなアンケートを見ているとそういう極端なケースもある。今回の事例を見てもそういうところが垣間見られる。このようなアンケートを総合解釈するのは非常に難しいことだと思うが、今申し上げたようなことを考えながら、全体として解釈いただきたい。</p> <p>もう一点は、現在の世界で、インターネットに対する扱いは重要である。一方で正しい情報をいかに伝えるかに関しては、先ほど G 委員もおっしゃったが、まったく関心がない人は聞きもしない。私はある団体の役員をしているが、ある情報を流しても、自分の興味あるものにはすぐ飛びつくものの、興味のないものは一切無視されるということがよくある。さらに、自分に都合の良いことは手伝ってもよいが、都合の悪いものは手伝わないか、無視する。こういう傾向がだんだん強くなっている。本来伝えたい人にいかに伝えるかが一番大きな問題だ。</p> <p>今回のアンケートで回答した 1000 人弱の方が、どのような方かはわからないが、果たして本来答えてほしい人に答えてもらったのかを疑問に感じる。というのも、かなりまともな意見が多すぎる。本来もう少し意見のばらつきがあってよいところ、非常に整合的な意見が多すぎるので、そのあたりに疑問を持っている。</p> <p>結論は 2 点ある。1 点目は、小さい頃からの教育ならびに企業人、社会人としての教育をいかに行政として構築していくか。2 点目は、あまり興味がない人や本来伝えたい人にいかに情報を伝えるかの手段の構築が必要だ。</p>
I 委員	<p>私は障害者団体から参加している。差別的な行動や人権侵害についてのコメントがもっと多いのかと想像していたが、報告書(案)の 111 ページの考察にも書かれているように、障害者の人権について、案外、災害時の安全確保の課題についての意見が多かった。すごく</p>

	<p>現実的だが、意外な感じを受けた。ただ、実際に大きな災害が起きた場合、弱者になってしまいがちな障害の方が多と思うので、そういう意味では、本調査でいろんな方が意識を持たれていることを認識できたことが、私にとっては成果である。</p>
B 委員	<p>外国人の問題について、いのち・愛・ゆめセンターの報告にもあったが、識字教育は今、日本人で被差別部落の方などが字を学ぶことは非常に少なくっており、実際は外国人で日本語を学びたいという方が多くなっていると思う。そのあたりも茨木市としては対応されているのだと考えている。</p> <p>また、H 委員がおっしゃっていたが、私もアンケートを書くときは正論を書いていた。実際に直面していないから綺麗ごとを書いていたと反省している。ここでのアンケートと自分の本音とは少し違うかなということはある。</p>
会長	<p>たしかに識字教育は、基本的なところ、教室は減っているかもしれないが、成人初等教育という観点から見れば人口は決して減っていない、むしろまだ学んでおられない現状があると思う。それについて我々は保障していく必要がある。</p> <p>もう一点は、外国人の日本語学習についてである。他の自治体ではボランティアが中心となっている。ところが最近、文部科学省は日本語を教えるボランティアの資格の問題を言い出している。そうするとボランティアは引いてしまう。そういう問題が起きつつあると聞く。そういったことを含めて、日本語教室を行政としてどうしていくのか。やってもらわなければならないし、もちろんボランティアの力も大事だし、皆で考えていく必要がある。識字問題について私の意見である。</p>
C 委員	<p>皆さんの意見を伺いながら、この意識調査の報告書が出た後に、その後の政策などにいかに活かしていくかを、この審議会がどう読み解いていくかが非常に重要だと思った。学校、PTA、企業、当事者団体、地域団体など、さまざまな方がこの審議会に集まっていることが強みだと思う。「現場では、そういうふうに使われるのか」とか、「なるほど、そこは現場との乖離があるんだな」とか、「現場だったらこう活かせる」「いや、今ここは限界だ」といった、おそらく次のステップで非常に生きてくる意見を皆さんからたくさんいただきました。</p> <p>また、事務局においては、今回の報告書ではポートフォリオなどで「見える化」にかなり工夫されていると思ったし、最後の考察の部分もかなり踏み込んだ考察を書き添えていたところもあったので、改めて感謝を申し上げたい。このあたりもまた皆さんからも「その読み方は、もう少しこう読めるのではないかな」などの意見があればいただきたい。</p> <p>私は、「前はこうだったが、今回は悪くなっている」「かなり深刻だ」「課題だ」というふうに目を向けてしまう傾向がある。しかし、皆さんの意見を聞きながら、「茨木市がこれまで取り組んできたことで、こういうふうに進んでいるんだ」というようなところも、ぜひ読み込んでいただきたいと思った。「政策の成果が、今回このように意識に活かされている」、それから「教育の責務を果たしたんだ」とか、「学校教育や社会同和教育でやってきたことなんだ」とか、「いのち・愛・ゆめセンターで取り組んでいる活動なんだ」、というような、それもぜひ茨木市の皆さんに意識調査結果を踏まえてお伝えしたいことだなと思った。</p> <p>もしかしたら、年代別の集計結果も、「若い世代はこうで、私の世代はこうで」と読み解きがちだが、それも読み方を変えると、「こういうふうに取り組んできた結果が、この世代に</p>

	<p>こういうふうに表示されているんだ」というようにも読めるのかもしれないとも思った。ぜひそのような肯定的なところも意識調査の中から市民の皆さんにお示ししたい。</p>
会長	<p>私の感想だが、先ほど F 委員から、茨木市の立ち位置を深めなければならないという指摘があった。まさにそうだと思うが、私は現在、7 つの自治体の委員をしているが、その中で見れば茨木市の人権が最も進んでいると言っても過言ではない。もちろん今のままで良いというわけではないし、まだまだ課題も多いが。</p> <p>今回の調査結果で特に気になったのは、先ほども C 委員の指摘があったが、ポートフォリオのタイプ C である。私はタイプ C の方について、関心を焦点化して見てきた。やはりいろんな問題がそこから見えてくると感じる。委員の皆さんにも、さまざまな視点を持っていただく必要があるが、ある一つの視点を持って、別の切り口からもう一度この報告書をご覧いただきたい。この報告書を活かしていくためにも、再度読み直していただきたい。</p> <p>アンケート回収率 48.9%は前回より少し増えており、社会教育調査としてこの数字は妥当だと、研究者として判断する。</p> <p>他に意見はないか。それでは、事務局から追加の説明はあるか。</p>
事務局	<p>追加の意見や質問があれば、2 月 20 日(金)までに事務局まで連絡いただきたい。今後、いただいた意見等をもとに、会長・副会長と調整し、報告書の完成を目指したいと考えている。</p> <p>次回の会議は、3 月 25 日(水)午後 2 時 30 分より、南館 10 階で予定している。議題は「市民意識調査の報告書について」、「いのち・愛・ゆめセンターの報告について」の 2 件である。</p>
会長	<p>次の議題にうつる。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">3 その他について</p> <p>次第 3 その他について、何かあるか。</p>
A 委員	<p><冊子「虹のひろば」について紹介></p>
事務局	<p><「いのち・愛・ゆめセンター利用案内リーフレット」及び「いのち・愛・ゆめセンター50 周年記念誌」について紹介></p>
事務局	<p>本会議の議事録については、事務局で作成後、発言された方に確認の上、市のホームページで公表させていただく。</p>
会長	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">4 閉会</p> <p>本日の議題は、すべて終了したので、閉会する。</p>